

Attracting Tomorrow



国際財務報告基準（IFRS）の任意適用による 連結財務諸表への影響

IFRS適用の目的と今後の開示予定

IFRS適用の目的

- ・ 資本市場における財務情報の国際的な比較可能性の向上
- ・ 会計基準変更によるグループ経営管理の一層の効率化及び品質向上

今後の開示予定

2022年3月期（2021年4月～2022年3月）の有価証券報告書における連結財務諸表から、従来の米国会計基準に替えて国際財務報告基準（以下、IFRS）を任意適用します。

なお決算短信における連結財務諸表及び会社法に基づく連結計算書類については、従来同様、米国会計基準にて開示いたします。

今後の開示予定は以下の通りです。

決算期		開示資料	適用会計基準
2022年3月期	期末	決算短信* 連結計算書類	米国会計基準
		有価証券報告書	IFRS
2023年3月期	第1四半期～ 第3四半期	四半期決算短信 四半期報告書	IFRS
	期末	決算短信 連結計算書類 有価証券報告書	IFRS

*2022年3月期 決算短信については後日IFRSでも開示予定

IFRS移行日時点（2020年4月1日）の 貸借対照表への主な影響

単位：億円

	米国会計基準	IFRS適用による主な影響			IFRS
		① のれんの減損	② みなし原価	その他	
資産合計	19,434	▲ 388	▲ 40	3	19,009
負債合計	10,948			14	10,962
純資産合計	8,486	▲ 388	▲ 40	▲ 11	8,047
負債及び純資産合計	19,434	▲ 388	▲ 40	3	19,009

※上記数値は現時点で監査未了です

IFRS適用による主な影響

①のれんの減損

- ・ のれんの減損テストの実施単位が異なる。両基準のテスト実施単位は以下の通り
 米国会計基準 = レポートिंगユニット（事業セグメントまたは事業セグメントより一段階下の構成単位）
 IFRS = 資金生成単位または資金生成単位グループ
- ・ IFRSにおける減損テストの実施単位である資金生成単位または資金生成単位グループについて、その一部が米国会計基準の減損テスト実施単位であるレポートिंगユニットよりも小さい単位となったことから、移行日における減損テストにおいて一部ののれんにつき減損損失を認識

②みなし原価

- ・ 一部の有形固定資産について、移行日現在の公正価値をみなし原価として使用する免除規定を適用

移行日時点ののれん減損損失の内、主なものはセンサ応用製品セグメントに含まれるMEMSセンサに関する資金生成単位グループに計上しているのれんより認識した減損損失です。

【のれん計上の経緯】

センサ応用製品セグメントは温度・圧力センサ、磁気センサ及びMEMSセンサの各事業によって構成され、2017年に新設されました。2017年に買収した米国子会社InvenSense, Inc.等、複数の子会社買収によってIFRS移行時点の米国会計基準上の連結財務諸表において1,064億円ののれんが計上されております。

【米国会計基準とIFRSの会計基準差】

米国会計基準上ののれん減損テストの実施単位は、レポーティングユニットであり、センサ応用製品セグメントを一つのレポーティングユニットとしてのれん減損テストを実施してまいりました。

一方、IFRSにおけるのれん減損テストの実施単位は、資金生成単位または資金生成単位グループとなり、センサ応用製品セグメントにおいては、温度・圧力センサ、磁気センサ及びMEMSセンサの各事業がそれぞれのれん減損テストの実施単位となります。

【減損損失計上に至る事業の背景】

このうちMEMSセンサ事業を営む米国子会社InvenSense, Inc.による新製品開発遅れ等により、移行日時点におけるMEMSセンサに関する資金生成単位グループの回収可能価額が帳簿価額を下回ったため減損損失を認識したものです。なお、IFRS比較年度（2021年3月期）における減損テストでは、回収可能価額が帳簿価額を上回ったため、追加の減損損失は認識されませんでした。

IFRS移行日時点（2020年4月1日）の 純資産変動の主な内容

単位：億円

	米国会計基準	IFRS適用による主な影響						IFRS
		表示組替	のれん減損	みなし原価	① 退職後給付	② 外貨換算調整額	その他	
資本金	326							326
資本剰余金	18							18
利益準備金	453	▲453						
その他の利益剰余金	9,711	453	▲388	▲40	▲959	▲944	▲46	7,787
その他の包括利益累計額	▲1,900				957	944	37	38
自己株式	▲168							▲168
株主資本合計	8,440		▲388	▲40	▲2		▲9	8,001
非支配持分	46							46
純資産合計	8,486							8,047

※上記数値は現時点で監査未了です

IFRS適用による主な影響

①退職後給付

確定給付年金制度及び退職一時金制度から生じる過去勤務費用及び数理計算上の差異の取り扱いについて

- ・米国会計基準では、当期の純損益として認識されなかった部分については、いずれもその他の包括利益累計額に計上のうえ、原則将来の一定期間にわたり純損益として認識
- ・IFRSでは、過去勤務費用は発生時に純損益として認識、数理計算上の差異はその他の包括利益として計上し、即時にその他の利益剰余金に振替

②外貨換算調整額

移行日現在の外貨換算調整額の累計額をゼロとみなすことができる免除規定を適用

IFRS 比較年度（2021年3月期）の 損益計算書への主な影響

単位：億円

	米国会計基準	IFRS適用による主な影響			IFRS
		① 退職後給付	② 金融商品 分類変更	その他	
売上高	14,790				14,790
営業利益	1,115			2	1,117
税引前当期純利益	1,219	39	▲88	8	1,178
当社株主に帰属する 当期純利益	793	38	▲83	▲1	747

※上記数値は現時点で監査未了です

IFRS適用による主な影響

①退職後給付

確定給付年金制度及び退職一時金制度から生じる過去勤務費用及び数理計算上の差異の取り扱いについて

- ・米国会計基準では、いずれもその他の包括利益累計額に計上のうえ将来の一定期間にわたり純損益として認識
- ・IFRSでは、過去勤務費用は発生時に純損益として認識、数理計算上の差異はその他の包括利益として計上し、即時にその他の利益剰余金に振替

②金融商品分類変更

資本性金融商品の評価損益の取り扱いについて

- ・米国会計基準では純損益として認識
- ・IFRSでは公正価値の変動額の取り扱い方法について銘柄ごとに指定することが可能であり、当社では原則としてその変動額をその他の包括利益として認識する（純損益として認識しない）

IFRS 比較年度（2021年3月期）の キャッシュ・フローへの主な影響

単位：億円

	米国会計基準	IFRS適用による主な影響		IFRS
		① リース	その他	
営業CF	2,228	81	▲1	2,308
投資CF	▲2,315		1	▲2,314
財務CF	292	▲81		211
為替変動の影響額	272			272
現金及び現金同等物の増加	477			477

※上記数値は現時点で監査未了です

IFRS適用による主な影響

①リース

- オペレーティング・リース取引に係るリース料支払いの取り扱いについて
- ・米国会計基準では営業活動によるキャッシュ・フロー
 - ・IFRSでは財務活動によるキャッシュ・フロー

